

ふる〜ぶ

吉野川ファン通信

VOL.102
2008/8



「ふる〜ぶ」はフランス語 (fleuve) で海にそそぐ大河のことです。
ひと、まち、自然、歴史、風景などの吉野川をとりまく様々な表情をみなさんにお伝えします。

1 page [特集] 吉野川アラカルト

支川の旅ー銅山川ー

愛媛県新居浜市の冠山付近を源とする銅山川は延長64.2kmで、祖谷川に次ぐ吉野川の支川です。今回紹介する銅山川には、3つのダム(富郷ダム、柳瀬ダム、新宮ダム)があります。

3 page 過去から未来へ 吉野川流域交流塾 東みよし町 大谷國廣さん

4 page ふる〜ぶ編集部がおじゃましま〜す! 半田中学校の巻 防災学習で、地域のサポーターに。 ふるさと半田を守り、育てよう

5 page ふる〜ぶめいと通信 吉野川はともだち 洪水で運ばれた神様や仏様

6 page 源流域からの便り ふるさとの森を育む ふる〜ぶ INFORMATION 排水ポンプ車操作訓練が行われました

7 page よりよい吉野川づくり<第39回> 台風期に備え、万全を期すために国土交通省では 関係機関と連携し、さまざまな対応を行っています ふる〜ぶび・ろ・ば 編集後記・おたより・プレゼント



コアシサシ【環境省および徳島県レッドデータブック:絶滅危惧Ⅱ類】

河原などを好んで巣を作るカモメ科の渡り鳥です。
近年、吉野川でもあまり見ることがなくなっているため、
そのコアシサシを呼び戻そうと徳島河川国道事務所では、
関係機関および地域住民の方々の協力を得て
コアシサシのデコイ(模型)を使った取り組みを行っています。

支川の旅—銅山川—

銅山川は、愛媛県新居浜市の冠山付近を源とし、石鎚山系の法皇山脈の嶺南地域を東に貫流し、徳島県三好市山城町で吉野川に注いでいます。延長64.2km、流域面積300km²で、祖谷川に次ぐ規模の吉野川の支川です。吉野川は昔から暴れ川としても知られていますが、こうした洪水を防ぎながら、豊かな水資源を活用する吉野川総合開発計画によって整備されたのが、早明浦ダム、富郷ダム、柳瀬ダム（吉野川総合開発計画時には完成済み）、新宮ダム、池田ダムです。今回紹介する銅山川には、3つのダムがあります。

吉野川と銅山川の合流地点（手前が銅山川）

■吉野川流域図



■銅山川3ダム（富郷ダム、柳瀬ダム、新宮ダム）ダムデータ

富郷ダム



（写真提供：水資源機構 池田総合管理所）

柳瀬ダム



新宮ダム



（写真提供：水資源機構 池田総合管理所）

所在地	愛媛県四国中央市富郷町	愛媛県四国中央市金砂町	愛媛県四国中央市新宮町
河川名	吉野川水系銅山川	吉野川水系銅山川	吉野川水系銅山川
目的	洪水調節・水道用水・工業用水・発電	洪水調節・かんがい用水・水道用水・工業用水・発電	洪水調節・かんがい用水・工業用水・発電
ダムの高さ・長さ	106m・約250m	55.5m・約140.7m	42m・約138m
流域面積	101.2km ²	170.7km ²	214.9km ²
総貯水容量	5,200万m ³	3,220万m ³	1,300万m ³

銅山川 3 ダム 水源地域ビジョン

魅力ある銅山川水源地域づくりを目指し、住民団体や自治体、国、独立行政法人水資源機構が共同し、銅山川流域のダムを活かした水源地域の自立的・持続的な活性化を目的とした銅山川3ダム水源地域ビジョンが平成15年に策定されています。ビジョ

ンでは、「水源地域の担う公益機能を向上させる」「地域資源を活かして観光を振興する」など7つの基本方針と、具体的な施策、水源地域づくりの推進方策が記載され、吉野川水系河川整備計画（再修正素案）でも水源地域ビジョンが盛り込まれています。

これら3つのダムは、比較的近いところに位置することから、放流する場合も連携しながら



湖面に映える美しい花火を見にいこう！

操作をしています。また、貯水率を発表する際にも3つのダムをあわせたもので発表されています。3ダムに貯められた銅山川水系の豊富な水は、四国中央市の発展の礎とな

っています。水及び水資源に対する感謝の気持ちを表し、地域の活性化のために毎年、湖水まつりが柳瀬ダム（金砂湖）と富郷ダム（法皇湖）において、交互に開催されています。湖面に映える美しい花火を見に行ってみませんか？

第22回 湖水まつり

〔開催日〕…平成20年8月2日(土) 小雨決行

〔会場〕…金砂湖畔公園(柳瀬ダム金砂湖)

〔内容〕…バンド演奏・三味線演奏・カラオケ大会・花火大会など

〔問い合わせ先〕…湖水まつり実行委員会事務局

(四国中央市水道局庶務課内)

TEL(0896)28-6452

紙のまち 四国中央市

四国中央市は、日本を代表する紙の産地。中でも、四国中央市の紙・パルプ製品は、製造出荷額4,810億円と、全国1位(平成18年工業統計)となっています。それを支えているのが、銅山川水系の富郷、柳瀬、新宮の3ダムです。



四国中央市街。製紙工場の煙突が立ち並び、銅山川の流れが愛媛県の紙産業を支えている

今回取材でお伺いした四国中央市水道局では、富郷、柳瀬、新宮の3ダムで、1日約58万 m^3 の工業用水を市内の、のべ94工場に給水しています。上水道では、給水人口7万4,588人(平成20年3月31日現在)に対し、富郷、柳瀬の2ダムで、日量5万9千 m^3 の給水能力を有しています。水道局の方のお話によれば、一つの市で3ダムから

給水しているのは、とても珍しいことだそうです。また、もともと水がとてきれいなこと、そして先人たちが作った「分水隧道(山に掘られたトンネル)」を通り、自然流下で流れていることから、水質がとてもいいことも特徴のひとつです。私たちの周りには、ありとあらゆる紙製品がありますが、食品や医療の現場で使われる紙も多くあります。そんな時は、美しい水で作った紙が必要になってくるそうです。

そんな紙の町にあるのが、愛媛県産業技術研究所 紙産業技術センターです。紙産業技術の試験研究、紙産業の技術支援のほか、展示コーナーでは、愛媛県の紙産業の特徴や歴史、ハイテク素材として進化する紙の使い方、人と環境との共生を考えた紙産業の取り組み、伝統工芸としての紙など、多くの展示によって、紙をより深く知ることができます。無料で手漉きハガキ作りの体験や、水引体験でブローチや、

トンボ、携帯ストラップなどを作ることができますよ。



紙産業技術センター



水引体験用のカラフルな水引

愛媛県産業技術研究所 紙産業技術センター

四国中央市妻鳥町乙127 TEL(0896)58-2144

休館日/月曜日(月曜日が休日の場合はその次の日)

12月27日～1月5日

体験の時間はお問い合わせください

銅山川流域立ち寄りスポット 翠波高原のコスモス

翠波高原は、標高892mの翠波峰一帯の高原で、瀬戸内海や市街地、四国山地や金砂湖までが見渡せる風光明媚な場所にあります。

これからの季節は、約25万本のコスモスが咲き誇り、8月中旬には見頃を迎えます。(例年の情報ですので、見頃については、お問い合わせくださいね)

翠波高原にコスモスの花を愛でに出かけてみませんか？

8月24日(日)には、コスモス祭が開かれます。

〔問い合わせ先〕

四国中央市観光交流課

TEL(0896)28-6187



翠波高原(写真提供:四国中央市観光交流課)

過去から 未来へ

ふる～ぶが100号を迎えた記念の年として、
取材した方々に再登場していただき、お話を伺っていきます。



吉野川～ その水の恵みに感謝

吉野川流域交流塾塾長 東みよし町
大谷 國廣さん

きらきらとした吉野川の流れ、チク
チクとした栗の実のいが、口のまわり
を真っ黒にしながらほおばった桑の実
の甘ずっぱい味、子どもの時の思い出
を楽しそうに話してくださった吉野川
流域交流塾塾長の大谷國廣さん。

もともとは1991年、旧三好町と対
岸の旧三加茂町(現在は、両町とも東
みよし町)をつなぐ三三大橋の開通イ
ベントで、さあーやらんで大楠21の
皆さんと合同で、橋上結婚式や、餅つ
きを行いました。

その時に唖然としたのが、橋の下に
大量のゴミが落ちていること、なんと



吉野川清掃活動(東みよし町周辺)

は吉野川全体でいうと中流域ですが、
徳島県内でいうと、上流域。「上流に
住んでいる私たちが、吉野川をきれい
にして下流の人にきれいな水を届け
るのは、当然の役目」そんな思いから、
美化活動に取り組み、「今度の清掃は
いつですか?」と声をかけてく
ださる人も出てきました。

そんな大谷さんには、この
頃ふつふつとある思いが湧き
出てきました。「7月の第一日曜
、この日を水に感謝する日にし
たいんです」と大谷さん。吉野
川があることが当たり前になっ
ている。蛇口をひねれば、当然
のようにたくさんの水が出て
くる。世界を見れば、そんな国はごく
わずか。豊かな吉野川の水があること
がどんなに幸せなことか、それを感じ
てほしいという思いがあります。

「別に、清掃でなくてもいい。自分
の家まわりの用水や、トイレやお風呂

の掃除でもいい。おいしい水をおい
しいと思うのもいい。この日を水に
感謝し、ひとりひとりが水について考
える日になれば」と大谷さん。

「昔はね、川に遊びに行くと、ここは
危ないよ。なんて教えてくれるおじ
さんがいたりね。家にあった井戸水
を手伝いでくんだりね。もらい風呂と
いって、近所の人がお風呂に入りきに
きたりしたんよ。子どもながらにそんな
人と話すのは、楽しかったなあ」川や
水にまつわる話はつきることはありません。

このように、水の恵みは人と人との
つながりも生んでいたのです。

今後は、水の大切さとともに、人と
人とのつながりの大切さを学んでほ
しいという大谷さん。「でも、本当は
もう誰かに譲りたいんよ」と次代を
担うリーダーの登場を待ちどおしく
思いながら、その瞳は「吉野川が大好き
」と笑っているようにも見えました。



菜の花の種まき(中流域)

かせないかと清掃を始めたのが活
動の始まりです。以来、7月第一日曜
日に行う吉野川の清掃を中心に、流域
の活性化と吉野川の環境美化のため
に奔走しています。

大谷さんの住んでいる東みよし町



水辺の楽校での植樹祭

(活動写真提供: さあーやらんで大楠21)

ふる〜ぶ 編集部が おじゃまします!



学校のすぐそばを吉野川の支流である半田川が流れ、まわりを山々に囲まれた半田中学校。今年6月の土砂災害防止月間において、昨年度の防災活動が認められ国土交通大臣表彰を受けました。

今や、半田中学校の伝統となっている『防災学習』。取材日は、本年度中心となって学習に取り組む2年生の第一回目の授業。昨年、防災学習に取り組んできた現在の3年生や先生にどのような活動をしてきたか、説明を受けました。



表彰状を見つめる子どもたち

一年をかけて取り組む学習の柱になるのは、次の3点。地域別に班を組み、土砂崩れなどが起こりやすい場所などの危険箇所や避難場所などを確認し、地図上に貼付する半田中学校版『ハザードマップ』の作成、家族で防災会議を開き、『わが家の防災マップ』を作る、防災に強い森『ケンヂの森』の育成活動。これらを柱にして、校区内に配布する防災パンフレット作り、身体の不自由な方を介護しながら避難する『要援護者疑似体験』、11月1日には、学校そして地域の方とともに防災避難訓練を開催するなど、濃い内容となっています。



生徒たちが作った防災パンフレット



防災学習のテーマは、「ふるさと半田を守り、育てよう」これは、校内で防災

生徒たちが作ったハザードマップ。半田病院に掲示されている

防災学習で、地域のサポーターに。ふるさと半田を守り、育てよう



今日は、全員集合のオリエンテーション。いよいよ防災学習が始まる

活動が始まった時から一貫して変わりません。

担当の先生方には、「生徒たちが学校の枠を超えて、災害時においても、自分の命を守り高い防災意識を持ち、地域防災の担い手である防災サポーターとなってもらいたい」という思いがあります。そのため、学習時においても、クラスの枠を超えて、近所の生徒同士を同じ班に編成にしています。

防災を語る時、自らの安全は自分で守る「自助」と地域住民が協力して守る「共助」、行政機関や公共機関が守る「公助」という言葉があるように、地域とのかかわりが非常に重要になってきます。「学習するにあたっては、関係機関や地域の皆さんに大変お世話になっ



おいおいに盛り上がった防災カルタとり

ています」と長年防災学習を担当してきた山下先生。

秋の避難訓練には、保護者や多くの町の人に参加しますし、ケンヂの森の育成事業の草刈り



ケンヂの森での草刈り作業
(写真提供 半田中学校)

作業にも多くのボランティアの人が参加しています。病院や、役場(支所)、診療所には、昨年の生徒が作ったハザードマップが掲示されているそうで、地域との深いつながりを感じます。

現在の2年生は、まだスタートしたばかりですが、なかには、校区内の避難所情報などを載せた防災パンフレットを地域に配布しにいった生徒もいて、防災の関心は高いようです。

昨年の生徒が作った防災カルタでカルタとりを行い、防災学習への意欲を高めた生徒たち。来年3月には、たのしい防災サポーターが誕生していることでしょう。



「ふる〜ぶめいと」の活動は、吉野川や吉野川流域に関する身近な情報を「ふる〜ぶ」に提供することにより、吉野川に親しみや、関心を持っていただいて、吉野川ファンの輪を広げていただくことを目的にしています。

吉野川はともだち

6月23日(月)
三好郡東みよし町 昼間小学校

ふる〜ぶめいとリーダーが中心となって、吉野川流域の子どもたちに、吉野川について学び、親しみ、楽しんでいただく『吉野川はともだち』が、昼間小学校で開催されました。この取り組みは、昨年から始まったばかり。昨年は、美馬市の重清東小学校で開催しました。

昨年は、ボランティアで参加してくださっているふる〜ぶめいとリーダーと、ふる〜ぶ編集部だけで行った学校訪問ですが、今回は、国土交通省の方も一緒に学校を訪れ、吉野川についてのお話をし、その後、ふる〜ぶめいとリーダーが竹細工を行うというスタイルとなりました。



吉野川については、国土交通省徳島河川国道事務所 森長副所長が、吉野川流域管内図をひろげ、昼間小学校はどの場所にあるのか、また、資料をもとに吉野川の長さや

広さ、生き物や洪水の話、堤防の大きさなどについてお話しました。子どもたちは、熱心に耳を傾け、吉野川や堤防の大きさなどを実感したようでした。

竹細工では、ふる〜ぶめいとリーダーの長江順次さんを中心に、今中忠重さん、山地武彦さん、上田佳穂さんが、子どもたちと一緒に竹細工をし、楽しい時間を過ごしました。作ったのは、ひねり竹とんぼとお箸。子どもたちは、みんな熱心に長江さんの説明に聞き入り、お手本を見せると一同



大歓声。作っている間は、「絶対に仕上げるぞ!」というみんなの熱意が伝わってきました。

一同に「楽しかった!」と言ってくれた子どもたち。

みんな、作ったお箸でご飯を食べましたか?

この詳しい様子は、ふる〜ぶ103号でお伝えします。

めいと
レポート

洪水で運ばれた神様や仏様

吉野川市 今中 忠重さん

かつて吉野川の流域は毎年のように洪水に見舞われ、人家や田畑を流し、また、それだけでなく神社をも流しました。

吉野川市鴨島町の市役所の東(中島)の飯尾川と麻名用水の中洲にある諏訪神社は、江戸時代末期の大洪水で流出し、別の地域に祀られていましたが、いつまでも他村に氏神を放置しておくのはよくないと、大正12年(1923)氏子により今の地に移されました。

他に吉野川市川島町学の春日神社は旧美郷村から、

徳島市眉山山麓のしいのみや椎宮神社は上板町から市内の別の地に漂着し、その後現在地に移したと伝えられています。

また洪水で流れ着いた仏像やお地藏さんをお祀りしているところもあります。



※参考文献 吉野川事典、ふるさと森山



源流域からの便り

第2便

このコーナーでは、吉野川源流域に住む方々に暮らしや四季のうつろいを、綴っていただきます。

ふるさとの森を育む

私たち、ふるさとの森を育む会は、生命の源である水を大切に、ふるさとの森を育むことを目的に、吉野川の支流、瀬戸川の源流域である稲村ダム周辺に、桜などの広葉樹を植樹し、自然環境を保全しようと、平成10年7月に会を立ち上げました。

平成11年3月、桜475本の植樹を皮切りに、毎年の植樹と生育環境を整えるための下草刈や、台風等の風による被害への対応などに取り組んでいます。

今年が植

樹を始めて、ちょうど10年になります。

植樹した桜で一番早く咲く仙台屋桜が4月下旬に咲き始め、

その頃には、アケボノツツジが、アメガエリの滝のあたりから、瀬戸川渓谷沿いに稲村ダムあたりまで、咲きのぼつてきます。

5月10日頃には、西門山から稲叢山への稜線がアケボノツツジ



でピンク色に染まります。一方、桜は一番遅く咲く梅護寺数珠掛桜が5月上旬に咲き始めますが、その間、間断なく、20種類ほどの花を目にすることが出来ます。

桜は、花だけでなく、夏は新緑

の葉桜、秋

には、光に

映えて深紅

に輝く紅葉

が見事です。

山眠る冬は、

木立のたた

ずまいが墨

絵をみてい

るようで風

情があり、

稲叢山が四季おりおり

に人々の心を癒しながら、

保水力豊かな緑のダムとし

て、その機能がいつそう

高まるよう、これから、

清流「瀬戸川」を守るた

め、緑のダムである「森」

を育んでいきたいと思っ

ております。

谷種子さん

土佐町在住。

ふるさとの森を育む会 顧問。

平成十年七月より、

瀬戸川源流域である稲村ダム周辺に、

広葉樹の植樹に取り組む。

谷種子

ふるさとの3姉妹の Information

報告

排水ポンプ車操作訓練が行われました。

6月25日 於：吉野川市鴨島運動場



排水ポンプ車

集中豪雨や台風シーズンの災害に備え、排水ポンプ車の操作訓練が、徳島河川国道事務所と徳島県の合同で実施され、災害時に作業を行う建設会社の作業員を含め、約130人が参加しました。排水ポンプ車は、台風や集中豪雨などにより浸水した地域に出動し、浸水した地域の水を川へ排出することができます。また、中国・四川省大地震や岩手・宮城内陸地震で報道されている土砂ダムの排水対策にも、有効に活用できることが実証されています。徳島県下には、合計11台(徳島河川国道事務所6台、那賀川河川事務所2台、徳島県3台)の排水ポンプ車があります。国土交通省の排水ポンプ車は、出動要請があれば、都道府県の枠を越えて被害があったところに出動することができます。訓練には、6台の排水ポンプ車と2台の照明車が出動しました。ポンプの設置、排水運転、片づけ、照明車の使い方など、実際の災害に備えて本番同様、地域住民の生命と財産を守るために訓練を実施しております。



実際の内水被害発生時には堤防の居住地側の水が川へと排出される。



ふる〜ぶ編集部も訓練の様子を見学させていただきました。



訓練で使用された車両

■徳島河川国道事務所 所有

排水ポンプ車

150m³/min…1台

60m³/min…1台

30m³/min…2台

照明車

2kW×6灯…1台

2kW×4灯…1台

■徳島県 所有

排水ポンプ車

30m³/min…2台

台風期に備え、万全を期すために国土交通省では関係機関と連携し、さまざまな対応を行っています。

重要水防箇所の合同巡視

(6市8町、地元水防団等約100名が参加)

吉野川・旧吉野川・今切川の*重要水防箇所の合同巡視は、台風や前線等に伴う出水に備え、国管理区間の重要水防箇所について「吉野川上流改修促進既成同盟会・水防連絡部会」、「吉野川下流水防連絡会」の構成機関が、水防体制の強化を図り、現地状況確認と情報周知の徹底を図るために実施しました。

*重要水防箇所：洪水時には、その洪水により堤防が壊れたり、洪水が堤防を越えてあふれださないように、地域の水防団の方々が土のうを積みむなど、「水防」活動をして、堤防を守ります。そうした事態をいち早く察知するため、現在の堤防の高さや幅、過去の漏水などの実績などから、あらかじめ水防上の重要な場所を決めています。

…徳島河川国道事務所ホームページ6月25日の記者発表を参照してください…



排水ポンプ車の操作訓練

集中豪雨や台風シーズンに備え、排水ポンプ車の操作に習熟するための訓練を、国土交通省・徳島県の合同で実施しました。



関係機関相互の情報共有、連携強化を推進する徳島北部災害情報協議会



水防活動を迅速かつ円滑に行うための連絡体制・水防資機材等の情報共有を図る水防連絡協議会



水害・土砂災害の現状と課題、当面の事業の進め方について情報共有・調整を図り、効果的、効率的な水害・土砂災害対策を進める総合流域防災会議

まるごとまちごとハザードマップ(上板町)

◆「まるごとまちごとハザードマップ」とは、浸水深や避難場所等洪水に関する情報を洪水関連標識として生活空間である「まちなか」に表示することにより、日常での洪水への意識を高めるとともに浸水深や避難所等の知識の普及を図り、災害発災時には安全かつスムーズな避難行動に繋げ、洪水による被害を最小限にとどめることを目的としています。

◆平成20年5月、徳島県でははじめて上板町に「まるごとまちごとハザードマップ」として、表示看板等が町内に設置されました。



よりよい吉野川づくり 吉野川河川整備計画については <http://www.yoshinoriver.info>



はる〜ぶ編集後記

特集でお邪魔した四国中央市には、多くの製紙工場があり紙の町であることを感じました。紙を作るのにかかせない水、私たちの生活のなかにある紙。あらためて、水の豊かさに感謝です。(か)



銅山川3ダムすべてを訪れたのは今回が初めて。3ダムとも四国中央市。ダムから市街地まで思っていたよりも近かったです。流域には四季折々に美しい花も咲いています。8月は銅山川流域で湖水まつりやコスモスまつりなども行われます。みなさん出かけてみませんか。(や)



おたより 吉野川河川一斉清掃について

阿波市 十川 茂雄さん

早朝5時30分に激しい雷雨により目が覚める。今日は、「河川一斉清掃の日」思わず天気になれと手を合わせて祈る。勝手な願いが通じたのか、7時には、雨もあがり涼しい天候で作業に着手することとなる。若津長寿クラブの参加者(18名)が全員異議なく(ゴミ袋)を手にして、膝まで草むらをかきわけていくその姿は、絶対にゴミをなくす気概にあふれている美しい光景であった。

この河川一斉清掃が始まるまでは、河川敷はゴミの山であったが、あれから数年、河川敷は見事に美しくなっている。みんなの力でゴミをなくそうというボランティアの心が各地に広がっている。

.....

誌面の都合で途中、割愛させていただきますが、とても長いお便りをいただきました。本当にありがとうございます。皆さんの「吉野川をきれいになりたい」という気持ちが伝わってくるようなお手紙です。これからも、吉野川をきれいにし続けてください。(編)



お手玉プレゼント

はる〜ぶめいとリーダー上田佳穂さんからいただいたお手玉を抽選で1名様様にプレゼントします。(2個)ご希望の方は、ハガキまたはFAXに住所、氏名、電話番号、誌面の感想もお書きのうえご応募ください。締切は8月29日(金)です。それぞれ模様が違う手作りですので、発送の際には、写真とお手玉の模様が異なる場合もあります。



プレゼント応募先
〒771-1156 徳島市応神町応神産業団地13-28
はる〜ぶ編集部「お手玉」プレゼント係